

トルコの政策金利引き上げについて

ポイント① 翌日物貸出金利を9.25%に引き上げ

トルコ中央銀行は1月24日の金融政策決定会合で、翌日物貸出金利を8.5%から9.25%に引き上げることを決定しました。一方、1週間物レポレートは8%に、翌日物借入金利は7.25%に、それぞれ据え置きました。

市場参加者の多くは、トルコリラ安に対処するため何らかの金融引き締め策がとられると予想していましたが、利上げ幅やどのような手法が選択されるかについては見方が分かれていました。

ポイント② 通貨安によるインフレリスクを懸念

同中銀はまた、「後期流動性貸出金利」を1%引き上げ11%とすることを同時に発表しました。同中銀は1月中旬以降、トルコリラ防衛のため、従来の1週間物レポレートや翌日物貸出金利を通じた資金供給を絞り込んでおり、市中銀行は高金利の「後期流動性貸出金利」での調達を強いられています。

同中銀は声明で、「前回の金融政策決定会合(2016年12月20日)以降の過度な為替レートの変動が、インフレ見通しの上振れリスクを高めている」としており、トルコリラ安を通じたインフレ圧力の高進を強く懸念しています。また、「物価安定の目的のため、すべての利用可能な手段を用いる」、「必要ならば更なる金融引き締めを実施する」とし、インフレ抑制に向けた強い決意を表明しています。

ポイント③ トルコリラは一時大きく下落

金融政策発表を受けた外国為替市場では、今回の措置がトルコリラ安阻止には不十分との見方などから、トルコリラは一時大きく下落しました。しかしその後落ち着きを取り戻し、ニューヨーク時間24日17時頃の市場では、対米ドルで前日比0.7%程度のトルコリラ安、対円で同0.3%程度のトルコリラ高となりました。

現時点で今後の金融政策決定会合開催スケジュールの発表がなく、不透明感を指摘する市場参加者もいます。今後のトルコ中銀の動向が注目されます。

図1：政策金利の推移

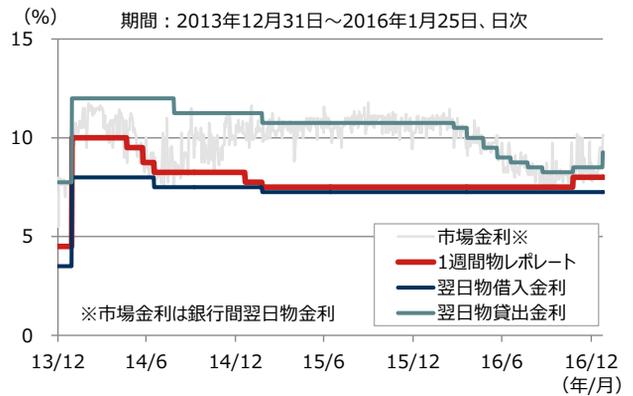


図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移

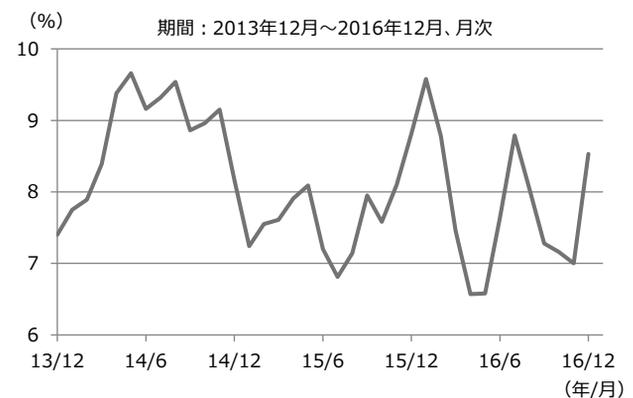


図3：為替レートの推移



重要
イベント

1月31日 外国人観光客 (12月)
2月3日 消費者物価指数 (1月)
2月14日 経常収支 (12月)